

# 大淀中学校だより 『生』

祝 卒業

第 14 号  
京都市立大淀中学校  
令和 4 年 3 月 15 日  
文責 油谷

## 答辞 前生徒会長 D.T

(前号からの続き)

夢や目標が叶う人と叶わない人の唯一の違いは「気持ち」です。

「一念岩をも通す」この言葉は、強い信念を持って物事に当たれば、どんなことでも成し遂げられる。という意味があります。

どんなことでも絶対出来るという気持ちを持って頑張って下さい。成功は積み重ねです。

ピラミッドは上から作ることが出来ません。簡単な、基礎的なことからコツコツと積み重ねていくことで成功に近づいていくんです。途中で挫折しても大丈夫です。時には失敗することもあります。自分はもうダメだと思う時もきっとくると思います。そんな時は1回休憩しましょう。やまない雨はありません。

雨がやんだら虹が出ます。でも雨が降らないと虹は出ません。

何が言いたいかというと、何かを成し遂げるには、何かうまくいかない時があるということです。

これから先、高校、大学、就職、結婚、いろいろなことがあると思います。その中でみんなには人の心の痛みが分かる人になって欲しいです。どこかで聞いたことがありますよね。

これは堀内先生が、みんなが入学してすぐに僕たちに向けて、言ってくれたことです。

人の痛みが分かる人っていうのは、本当は辛くて泣きたいけど、頑張って笑っている人に気が付ける人です。

そして、もうひとつおっしゃってましたね。それは一人ひとりが持っている個性を認められる人です。

茶色には茶色の良さがあるように、どんな物でも、どんな人にも良いところがあります。何も知ろうとせず、嫌な偏見を持つような人になるのではなくて、心の温かい人になって欲しいんだ思います。

この先生方の思いを胸に抱いて、また新しいステージで頑張っていきましょう。

人生 100 年あるとしたら、たったの 3 年かもしれないけど、僕はこの 3 年間を忘れることはできません。

この 3 年間は思い返せば思い返すほど、幸せだったんだと実感します。

もうこのメンバーで過ごすことはないと考えると、とても悲しいです。

昨日まで聞いていた声。昨日まで一緒にいた友達。昨日まで見ていた景色。昨日まで過ごしてきた教室。

当たり前だった日常が、明日からはもうありません。

これからはこの大淀中学校で育てていただいたことを誇りに思って、人生を楽しんでいきましょう。

教職員の皆様 3 年間僕たちを褒めて伸ばし、ダメなことはダメだと叱ってくれて、今日まで育ててくださり、本当にありがとうございました。

そして在校生の皆さんへ みんなもいすれは、今のメンバーとお別れする時が来ます。本当に一日一日を大切にして下さい。明日が必ず来るとは限りません。一日一日を最初で最後の日だと思って過ごして欲しいです。

そして、お父さん、お母さん、家族の皆さん、3 年間僕たちを大淀中学校に通わせてくれてありがとうございました。僕たちは見ての通り、間違いなく成長しました。

たくさん迷惑をかけたと思いますが、温かく見守ってくれて本当にありがとうございました。

これから先もたくさん迷惑をかけてしまうかもしれません、僕たちを信じて見守っていて下さい。

まだまだ未熟な僕たちですが、いつか必ず家族の中で一番すごい立派な大人になります。

最後になりましたが、京都市立大淀中学校の今後の発展をお祈りし、第 47 期卒業生代表の答辞とさせていただきます。

令和四年三月十五日  
卒業生代表 前生徒会長 D.T

## 送辞 生徒会長 T.K

三月も半ばとなり、徐々に春の温かさが感じられるようになってきました。この良き日に、卒業される三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

三年前、この大淀中学校に入学された先輩方は、たくさんの希望を胸に抱いて門をくぐられたことと思います。それから、あっという間に三年間が経った今、先輩方は、それぞれの道へ進もうとされています。この三年間にはたくさんの忘れられない思い出ができたことでしょう。僕たち在校生も先輩方とともに過ごしてきた日々のことが蘇ってきます。部活動では入学したばかりで何も分からず緊張していた私たちにとても優しく接していただき、いつも支えてくださいました。いつも面白く優しい先輩方でしたが、練習になるとまるで別人のように真剣に活動に取り組まれていて、その姿には圧倒されるばかりでした。

切り替えがとても早く、周りに元気を分け与えてくれる。そんな先輩方は、僕の憧れでした。三年生の皆さんには、登校時に声をかけてくださったり、学校内で会った時に手を振ってくれたりと、僕たち1, 2年生に話しやすい空気を作ってくださいました。僕が今、この場で話すことができているのも先輩方がつくる温かい空気のおかげです。「いるだけで安心する存在」こんなにいい先輩に巡り合えた僕たちは幸せ者です。

中学校生活の中、突然私たちの前に現れ、猛威を振るった新型コロナウイルス。様々な活動が制限され、辛い思いをしたこともあったと思います。しかしそのうちでも逆境に打ち勝ち、様々なことに果敢に挑んでいく先輩方に、僕たち在校生は大きな勇気をもらっていました。

特に、体育委員長はコロナ禍にも拘わらず、球技大会や様々な企画を考えてくれました。体育大会では他学年である僕たちを熱い眼差しで見守っていただき、その姿からは、体育委員にかける熱い思いがひしひしと伝わってきました。

僕は先輩方に伝えたい言葉があります。それは「自分と仲間を大切に」というものです。先輩方は、この三年間様々な苦境を乗り越え、今日まで生きてきました。本当に頑張ってこられました。たくさんの努力を重ねてきたのです。自分に誇りを持ってください。決して自分にマイナス評価を付けず、常にプラス思考な明るい先輩でいてください。しかしそれは自分一人でできることでは無いと思います。仲間がいるからこそ明るくいることができるのだと思います。僕たち人間は今までずっと一人で生きてきましたか。いいえ、必ず支えてくれる仲間がいたはずです。それは家族、友達、あるいは先生かもしれません。人と人とのつながりはかけがえのない美しいものです。皆さんはどうか、仲間を大切にしてください。僕も「自分と仲間を大切に」この言葉を胸に秘め、生きていきます。壁にぶつかったら大淀に帰ってきてください。いつでもお待ちしております。

最後になりますが、皆さんのご健康と更なるご活躍をお祈りし、送辞とさせていただきます。

令和四年三月十五日  
在校生代表 生徒会長 T.K

### 校長式辞

ただいま「令和3年度 第47回卒業証書授与式」において、伝統と歴史ある大淀中学校を巣立ち行く101名の皆さんに卒業証書を授与いたしました。卒業生のみなさん、『卒業おめでとう』いま、皆さんの胸中は過ぎ去った中学校生活3年間の数々の思い出と未来への希望とで、さぞ一杯のことだと思います。今日のこの喜びと感激を迎えることができたのは、皆さん自身のたゆみない努力もさることながら、お家の方、保護者の方々の限りない愛情と小中学校の教職員の熱心な温かい指導、そして地域の方々が、皆さんの成長を影になり、日向になり、見守りご指導いただいた賜です。

このことを深く心に刻み、これからも感謝の気持ちで応えてほしいと思います。

さて皆さん、3年間を振り返ってみてどうでしたか？

この大淀中学校で過ごしたかけがえのない日々は、皆さんにとって、一生の宝物になると私は確信しています。そんな皆さん、3年間、大淀中学校で来る日も来る日も「自分磨きの旅」をして、いろいろな努力を続けてくれました。中でも皆さんと一緒に修学旅行のことは忘れないでしょう。

特に初日、男子の皆さんと湯けむりたっぷりの露天風呂に一緒に入ったことは、とても楽しいひとときとなりました。また、天竜川でのラフティングをはじめとする数々の自然体験は、皆さんを童心に返らせ、そして命の洗濯をしてくれたのではなかっただろうか。コロナ禍によって数々の行事を変更、中止をせざるを得なかつた中、辛抱に辛抱を重ねてきた皆さん、いきいきとして楽しんでくれている姿を見て、私は胸が熱くなりました。そして皆さん、様々な思いを持ちながらも、決して後ろ向きにならず、大淀中学校を誇りの持てる学校へと前進させてくれました。3年間の授業はもちろん、体育大会や合唱コンクール、そして熱い日々を送った部活動など、皆さんにとって、これらの日々は振り返ると本当にかけがけのない青春の1ページになったことでしょう。

しかし、思春期真っ只中のみなさんは、時には、悩み、苦しみ、自分のことで精一杯の時もあったのではないかでしょうか。仲間とぶつかったことも、今となっては良い思い出になっているかもしれません。

特に1年生の時には、先生方の手を焼かせることが多々ありましたね。

先生方は夜遅くまで、どうしたらみんなに思いが伝わるのか、一生懸命考えて考えて日々を迎えていました。今でこそ、強い信頼関係で結ばれている皆さんとの関係ではありますが、その時の先生方の苦労は相当なものでした。私はその当時、学年主任の堀内先生にこう話をしました。「先生方の子ども達への関わりは、間違いなく正しい方向に進んでいますよ。その思いは絶対に伝わるときが来るからね。今進んでいる道を決して諦めないで、真っ直ぐ進んでいってね。あの子らは絶対に分かってくれるから」と。

皆さんは何回も失敗したかもしれません。でも、皆さんはこの温かい先生方の思いをしっかりと受け止めてくれたと思います。そんな皆さんは幸せ者です。こんな素晴らしい教職員に出逢えたのだから。

でも、もっと幸せなのは、皆さんと出会えた私達の方です。こんなに思いを汲んでくれる子ども達はどこにもいません。(次号に続きます)